



News Release

06-D-1229
2007年3月30日

国立大学法人 九州大学 (証券コード: -)

長期優先債務新規格付 : 「AAA」(トリプルA)
格付けの見通し : 安定的

株式会社日本格付研究所(JCR)は、以下のとおり長期優先債務*の新規格付けをしましたのでお知らせします。

* 長期優先債務格付けとは、債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付けと位置づけています。個別債務の評価(債券の格付け、ローンの格付け等)では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付けが長期優先債務格付けと異なること(上回ること、または下回ること)もあります。

発行体: 国立大学法人九州大学

【新規】

(対象)	(格付)	(見通し)
・長期優先債務	AAA	安定的

【格付事由】

- 1911年に我が国4番目の帝国大学として設立され、学生数約18,000人、教職員数約4,500名、11学部、17学府、16研究院、附属病院等を擁する大規模総合大学。大学院重点化の方針に沿って、2000年より教育・研究組織の抜本的な改革が進行中である。大学院の教育研究組織である研究科を大学院の教育組織としての「学府」と、教員の所属する研究組織である「研究院」に分割、教育上のニーズと研究上のニーズの相違に対して柔軟な組織編成を可能とする学府・研究院制度を導入している。教員の殆どは各研究院に所属するが、こうした先駆的な制度を全学的に導入する大学は、国内でも本学のみである。
- 本学が進める大学改革は、新キャンパスへの統合移転、病院の再開発という二つの事業を同時並行的に進める中で、法人化が拍車をかける形でそのスピードが加速している。新キャンパスである伊都キャンパス(福岡市西区ほか)への移転は、工学部を皮切りに本格化しているが、完了予定を2019年度とする長期プロジェクトである。福岡市中心部からの移転となるものの、国内最大規模のキャンパスが完成することで教育・研究環境の大幅な改善と効率化が見込まれ、経営基盤の強化に資するものと期待される。
- 我が国の大学改革は、学長のリーダーシップによるトップダウン型のマネジメントが必ずしも有効とはいえないケースが多い。特に伝統ある大規模校においては根強いセクト主義や、アカデミズムの強調、経営方針の組織末端までの浸透不足等が、改革の阻害要因となり、多大なエネルギーと時間を要する例が散見される。これに対し、本学は「4-2-4アクションプラン」により、大学の重点活動分野や将来構想に対する支援策を明確にし、また「5S運動」をスローガンとした職員の意識改革運動を徹底する等、総長のビジョンを浸透させやすい風土作りに努めている。さらに今般、伝統ある大規模校であることの特性を踏まえ、「三位一体の改革」を打ち出している。教員組織編成の柔軟化と人員管理方式から総人件費管理への移行、予算の学内配分方針の見直しを柱とし、各部に積極的な改革を推進させる為の裁量と責任を与えつつ、総長のリーダーシップによる全体最適化を図る運営形態に移行していくものである。こうした各部署の特性に配慮しつつ自己改革を求め、総和としての法人改革を推進させていく手法は、大規模校ならではの経営資源の活性化策であり、財務体質の改善には有効に機能するものと見ており、JCRはその進捗状況に注目していく。

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。
また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。
格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 **日本格付研究所**

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル

<情報提供電子メディア(検索コード)>

BLOOMBERG (和文: JCRA / 英文: JCR) REUTERS (EJCRA)

QUICK (和文: QR / 英文: QQ) JIJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026 担当: 情報・研修部

<http://www.jcr.co.jp>



News Release

- (4) 本学の学生の8割は九州地区の出身者で構成されるが、当地区における学生獲得力は他校を圧倒している。また、大学院重点化大学として研究対象領域は多方面にわたり、文部科学省等の競争的資金や企業等との共同研究資金等、外部資金の獲得力は、国公立大学の中でも群を抜く存在でかつ安定している。特に21世紀COEプログラムをベースとし、伊都キャンパス内に設置した産業技術総合研究所との水素利用の基盤技術開発プロジェクトは、本学の研究資源の蓄積と新キャンパス移転の相乗効果による新たな資金獲得の好例である。また、伊都キャンパスを活用した自治体・企業との連携も進むなど、総合大学としてのポジションをフルに活用している。一方、中国、アジアをはじめとした国際交流も活発化させており、特にアジアからの留学生受け入れ実績は特筆すべき水準にある。アジアの有力大学が参加するアジア学長会議の中核校としての機能を果たしており、研究面での国際交流も積極的に進めている。
- (5) 本学の源流でもあり、国立大学の中でもトップクラスの規模と高度先進医療を手掛ける病院は、病棟や外来棟の改築移転など現在再開発段階にある。九州での他大学や医療機関等との結びつきが強く、また、三次救急の重責を担う地域拠点病院としての地位を確立している。建設等に伴う借入金に対し、経営改善係数の適用や診療報酬改定への対応等、他の国立大学同様の課題を抱えているが、収支改善に向けた各種取り組みが積極的に行われており、特段懸念すべき状態にはない。
- (6) 全国公立大学の中でも豊富な教育・研究資源を持つ本学は、我が国の高等教育を発展させる上で必要不可欠な存在であり、多面的かつ広範囲な教育・研究機会を数多く有している。また、本学は内外の評価を積極的に受け、改善につなげる姿勢が強く、自己批判・改善機能を有し、本学自らが認識する課題を克服するだけの資質はあるものと見ており、将来キャッシュフローの安定性と成長性を担保するだけの経営基盤を有していると思われる。JCRは本学が九州の「リーディングユニバーシティ」であるだけでなく、わが国の高等教育行政を体現する重要な拠点校としてのポジションは法人化後も特に変化は見られないと考える。今後の国立大学法人制度改革の動向が本学に与える影響には留意しつつも、現時点では限りなく国の信用力に近いものと判断し、今般の格付けに至った。なお、収支・財務面に関しては国立大学法人制度の安定性が認められ、本件格付けに反映されている(本日付ニュースリリース06-D-1230を参照)。

以上

(医療法人・学校法人チーム チーフアナリスト 吉田法男 ・ 学校格付グループ シニアアナリスト 殿村成信)

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。
また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。
格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 日本格付研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル

<情報提供電子メディア(検索コード)>

BLOOMBERG (和文: JCRA / 英文: JCR) REUTERS (EJCRA)

QUICK (和文: QR / 英文: QQ) JIJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026 担当: 情報・研修部

<http://www.jcr.co.jp>